

HP Data Protector Notebook Extension 6.10

インストール/管理ガイド

製品番号: n/a
初版: 2009年9月



ご注意

© Copyright 2009 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。HP製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載で追加保証を意図するものは一切ありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HPはいかなる責任も負いません。

Microsoft[®]、Windows[®]、Windows XP、Windows NTR、およびWindows Vista[®]は、Microsoft Corporationの米国における登録商標です。

目次

本書について	7
対象読者	7
参考資料	7
表記上の規則およびシンボル	7
全般情報	8
HPテクニカルサポート	9
製品サービスへの登録	9
HPのWebサイト	9
ご意見、ご感想	9
1 概要と要件	11
Notebook Extensionの概要	11
Notebook Extensionのインストールの概要	13
要件	13
Policy Server	13
データベース	14
Notebook Extension Agent	14
2 Notebook Extension Policy Serverのインストール	15
クイックインストール	15
詳細インストール	16
3 Notebook Extension保護ポリシーの設定	19
Notebook Extensionインストール後の初期セットアップ	19
初回インストール時の設定	20
その他のポリシーの設定	24
その他の構成タスク	25
サポートできるAgentの数の決定	27
サイズ決定を左右する要素	27
サイズ決定に関する推奨事項	28
Data Vault	28
Policy Server	28

ネットワークに関する検討事項	29
4 Notebook Extension Agentのインストール	31
個々のクライアントマシンへのNotebook Extension Agentのインストール	31
要件	31
インストール手順	31
Notebook Extension Agentの組織全体への配置	32
Kitの内容	33
配置およびインストール手順	34
5 Notebook Extensionのサポートへの連絡方法	37
索引	39

図一覧

1 Notebook Extensionアーキテクチャー	12
------------------------------------	----

表一覧

1 表記上の規則	7
----------------	---

本書について

本書では、以下の内容について説明します。

- ・ HP Data Protector Notebook Extensionのインストール
- ・ HP Data Protector Notebook Extensionポリシーの設定
- ・ ユーザーのデスクトップおよびノートブック上のHP Data Protector Notebook Extension Agentソフトウェア
- ・ サポートできるAgentの数の決定

対象読者

本書は、HP Data Protector Notebook Extensionをインストールおよび構成する管理者を対象としています。次の製品に対する理解を深めるために役立ててください。

- ・ HP Data Protector
- ・ Windowsの管理

参考資料

HP Data Protectorに関連する多数のガイドがあります。詳細なリストについては、それらのいずれかの「はじめに」を参照してください。

次に示すHPのソフトウェア製品マニュアルWebサイトでこれらの資料を見つけることもできます。

<https://h20230.www2.hp.com/selfsolve/manuals> (英語)

表記上の規則およびシンボル

表 1 表記上の規則

表記法	項目
メディアムブルーの語句: 表1 (7ページ)	クロスリファレンスリンクおよびEメールアドレス

表記法	項目
ミディアムブルーの下線付き語句: http://www.hp.com	Webサイトアドレス
太字	<ul style="list-style-type: none"> ・ キー名 ・ ボックスなどGUIで入力される文字列 ・ クリックおよび選択されるGUI (メニュー、リスト項目、ボタン、タブ、チェックボックスなど)
イタリック体	語句の強調
Monospaceフォント	<ul style="list-style-type: none"> ・ ファイル名およびディレクトリ名 ・ システムアウトプット ・ コード ・ コマンド、コマンド引数、および引数の値
イタリック体のMonospaceフォント	<ul style="list-style-type: none"> ・ コード変数 ・ コマンドライン変数
太字体のMonospaceフォント	Monospaceフォントの語句の強調

❗ **重要:**

詳細情報または特定の手順を示します。

📖 **注記:**

補足情報を示します。

全般情報

Notebook Extensionの全般情報は、HPのWebサイト<http://www.hp.com/go/dataprotector> (英語)で確認できます。

HPテクニカルサポート

この製品のテクニカルサポートについては、次のHPサポートのWebサイトに記載されています。

<http://www.hp.com/support> (日本語)

HPにお問い合わせになる前に、次の情報を準備してください。

- ・ 製品のモデル名およびモデル番号
- ・ テクニカルサポートの登録番号(該当する場合)
- ・ 製品のシリアル番号
- ・ エラーメッセージ
- ・ オペレーティングシステムの種類とリビジョンレベル
- ・ 詳細で具体的な質問

製品サービスへの登録

お使いの製品を、次のSubscriber's Choice for BusinessのWebサイトで登録することをお勧めします。

<http://www.hp.com/go/e-updates> (英語)

登録を済ませると、製品のアップグレード、ドライバーの新しいバージョン、ファームウェアアップデートなどの製品リソースに関する通知を電子メールで受け取ることができます。

HPのWebサイト

その他の情報については、HPの次のWebサイトを参照してください。

- ・ <http://www.hp.com> (英語)
- ・ <http://www.hp.com/go/storage> (英語)
- ・ <https://h20230.www2.hp.com/selfsolve/manuals> (英語)
- ・ <http://www.hp.com/support/manuals> (英語)
- ・ <http://www.hp.com/support/downloads> (英語)

ご意見、ご感想

本書に関するご意見、ご感想をお待ちしております。

製品マニュアルについてのご意見、ご感想は、DP.DocFeedback@hp.comに電子メール
でご送信ください。お送りいただいたご意見は、HPの資産になります。

1 概要と要件

Notebook Extensionの概要

HP Data Protector Notebook Extensionは、主にPolicy ServerとAgentの2つのソフトウェアコンポーネントから構成されています。Policy Serverは、Windowsサーバー上で動作し（サポートされるバージョンについては、サポートマトリックス (<https://h20230.www2.hp.com/selfsolve/manuals>)を参照)、Agentは各デスクトップまたはラップトップ上でバックグラウンドで動作します。

Policy Serverは、Active Directoryサーバーにあるグループや組織単位にアクセスすることも可能です。

1つ以上のファイルサーバーが存在している必要があります。ファイルサーバーには、Notebook Extensionによるユーザーデータのバックアップ先となる、Data Vaultsと呼ばれる共有フォルダーが含まれています。

Notebook Extensionアーキテクチャーを次の図に示します。

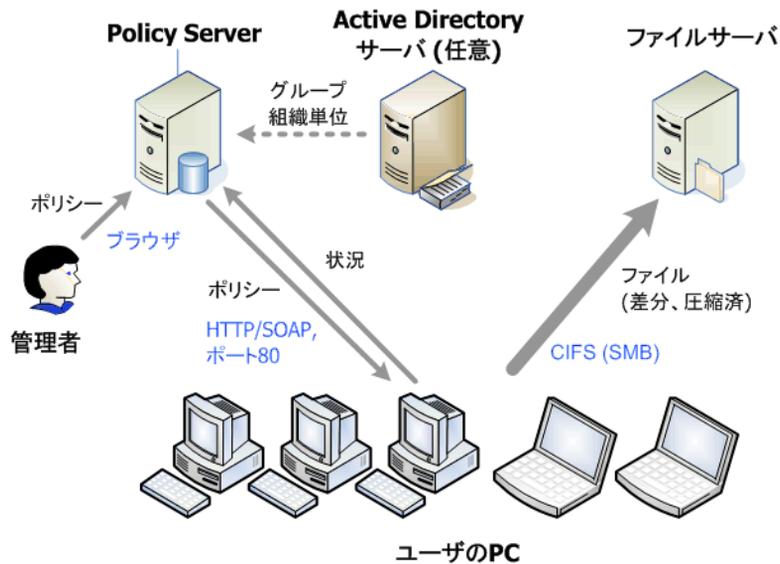


図 1 Notebook Extensionアーキテクチャー

さまざまなポリシーが、デスクトップおよびラップトップからどのファイルをバックアップするか、さらにこれらのバックアップをどこで保管するかを制御しています。Policy Server Consoleを使用して、これらのポリシーを定義します。その後、ポリシーは、SOAPプロトコルを使用し、HTTPポート80を介して、Agentに自動的に配信されます。ポリシーは、Policy Server上で保管されます。

Agentがこれらのポリシーを実行します。ポリシーにより保護されているデータファイルをユーザーが変更すると、ユーザーPC上のハードディスクに変更前のバージョンが作成され、かつ変更したファイルが適用されるData Vaultsすべてにコピーされます。

ファイルがバックアップされると、Agentは必ず、ユーザーによるファイル変更の監査履歴を含む通知をPolicy Serverに送信します。加えて、各Agentは定期的に「動作状況」情報をPolicy Serverに送信します。Policy Server Consoleで、このデータのレポートを生成できます。

Data Vaultsは、ファイルサーバー上に用意されます。ファイルサーバー上にはこれらのサーバーで実行されるクリーンアップソフトウェア以外にNotebook Extensionソフトウェアをインストールしないのがパフォーマンス向上のための最も良い方法です。

Active Directoryをご使用の場合、設定によりPolicy Serverがグループや組織単位にアクセスするようにすることが可能です。あるユーザーに対して、そのユーザーが属するグループや組織単位に基づいてData Vaultsを割り当てることができます。レポート閲覧時には、所属グループ・組織単位によってユーザーを選択することが可能です。

Notebook Extensionのインストールの概要

Notebook Extensionのインストールは3段階に分かれています。

1. **Notebook Extension Policy Server**をインストールする。
第2章(15ページ)を参照してください。
2. **保護ポリシー**を設定する。
第3章(19ページ)を参照してください。
3. **Notebook Extension Agent**をラップトップおよびデスクトップにインストールする。
第4章(31ページ)を参照してください。

要件

Policy Server

サポートされるオペレーティングシステムについては、サポートマトリックスを参照してください。

注記:

Policy Serverは、64ビットWindowsオペレーティングシステムにインストールされても、32ビットモードで動作します。

サーバーには次のものがインストールされている必要があります。

- Internet Information Services 5.0、6.0以降、ASP.NETアプリケーションのサポート機能付き
- Microsoft ASP.NET 2.0

また、次のものもサーバーにインストールされている必要があります。インストールされていない場合、インストールウィザードの指示にしたがい、CD-ROMからそれらをインストールすることができます。

- Microsoft Installer 3.1以降(.NET Framework 2.0 SP1が必要)。
- Microsoft .NET Framework 2.0 SP1以降。ウィザードは、バージョン2.0 SP1をインストールします。
- Microsoft SQL Express (別のSQLバージョンがない場合)

データベース

Notebook Extensionは、Microsoft SQL Serverデータベースにアクセスする必要があります。サポートされるバージョンについては、サポートマトリックスを参照してください。

Microsoft Enterprise Managerを使用してSQL Serverインストールの認証モードを確認(および変更)できます。

1. SQL Serverインスタンスを右クリックし、[プロパティ]を選択し、[セキュリティ]タブをクリックします。
2. [SQL Server and Windows]オプション([Windows only]オプションではなく)がすでに選択されているはずです。選択されていない場合は、選択して[OK]をクリックします。

また、Notebook Extensionのインストール中に、MicrosoftのSQL Server Express Editionのインスタンスをインストールすることもできます。

Notebook Extension Agent

Notebook Extension Agentソフトウェアは、Windowsを実行するユーザーのデスクトップまたはノートブックにインストールできます。サポートされるプラットフォームについては、サポートマトリックスを参照してください。

2 Notebook Extension Policy Serverのインストール

クイックインストール

Notebook Extension Policy Serverの要件については、[Policy Server](#)、13ページを参照してください。

1. Notebook ExtensionインストールCD-ROMを挿入します。インストールウィザードが自動的に起動しない場合は、インストールCD-ROMのルートでsetup.htaをダブルクリックして手動で実行します。
2. 画面上の指示に従います。
3. Notebook Extension Policy Serverは、Microsoft SQL Serverデータベースにアクセスする必要があります。**[Microsoft SQL Server Expressの既存のDataProtectorNEインスタンスを使用する]**を選択するか、**[Microsoft SQL Server 2000/2005の既存のインスタンスを使用する]**をクリックします。既存のSQL Serverを使用するように選択した場合は、データベースサーバー接続文字列と、新しいデータベースを作成するための十分な権限を持つアカウントの資格情報を入力する必要があります。
4. ウィザードの**[Data Protector Notebook Extension Administration Serverのインストール]**ページで、**[インストール]**をクリックし、インストールを開始します。
5. インストールが終了したら、クリーンアップソフトウェアをインストールする必要があります。**[Data Protector Notebook Extension Data Vaultクリーンアップのインストール]**画面で、**[インストール]**をクリックします。
6. インストールが終了したら**[次へ]**をクリックします。その後、Notebook Extension Policy Server Consoleを実行するように選択できます。

 **注記:**

インストール時に、クリーンアップソフトウェアはPolicy Serverにインストールされません。また、パフォーマンスを最適化するため、クリーンアップソフトウェアをData Vaultsにもインストールすることを推奨します。

詳細インストール

 **注記:**

このサーバーの.NET 2.0 Frameworkランタイムのセキュリティポリシーがローカルイントラネットセキュリティゾーンに対して[Full Trust]に設定されている場合、Notebook Extension Policy Serverは、ネットワーク上で共有されているCD-ROM、またはネットワークファイル共有からのみインストール可能です。サーバーにローカルCD-ROMドライブがない場合は、管理ツールの.NET Framework 2.0構成ツールを使用して、ローカルイントラネットセキュリティゾーンのランタイムセキュリティポリシーを[Full Trust]に変更するか、CDからサーバー上のローカルディスクにServerフォルダーをコピーします。

Notebook Extension Policy Serverインストールを実行するには、「管理者」権限を持つアカウントにログインする必要があります。

1. Notebook ExtensionインストールCD-ROMを挿入します。インストールウィザードが自動的に起動しない場合は、インストールCD-ROMのルートでsetup.htaをダブルクリックして手動で実行します。
2. [Policy Serverのインストール]をクリックします。
要求されたら、[このプログラムをディスクに保存]ではなく、[このプログラムを現在の場所から開く] (または[このプログラムを現在の場所から実行])を選択します。
3. Notebook Extension Policy Serverには、.NET Framework 2.0 SP1が必要です。事前にインストールされていない場合は、CD-ROMからそれをインストールするかどうかの確認が求められます。
インストールするには、Windows Installer 3.1以降が必要です。必要な場合は、CD-ROMからWindows Installer 3.1をインストールするかどうかの確認が求められます。
4. インストールウィザードは、他の必要なソフトウェアがインストールされていることをチェックします。
 - ・ インターネットインフォメーションサービス(IIS)
 - ・ ASP.NET 2.0

いずれかが不足している場合は、リストの該当する要件をクリックすると、そのインストール方法の詳細が表示されます。

[次へ]をクリックします。

5. Microsoft SQL Serverをインストールします。
Microsoft SQL Serverの既存のインスタンスを使用する
 - a. [Microsoft SQL Server 2000/2005の既存のインスタンスを使用する]をクリックします。
 - b. [データベースサーバー]フィールドで、既存のデータベースサーバーへの接続文字列を入力します。
 - c. [ログイン]フィールドと[パスワード]フィールドで、新しいデータベースを作成するために十分な権限を持つアカウントの資格情報を入力します。通常、これは「sa」アカウントです。
 - d. [次へ]をクリックします。入力した接続情報は、既存のデータベースサーバーにテスト接続するために使用されます。接続に成功すると、ウィザードはステップ6に進みます。

MicrosoftのSQL Server Express EditionのNotebook Extensionインスタンスをインストールする

- a. [Microsoft SQL Server Expressの既存のDataProtectorNEインスタンスをインストールする]を選択し、[次へ]をクリックします。
 - b. [インストール]をクリックして、Microsoft SQL Server 2005 Express Editionのインスタンスをインストールし、「DataProtectorNE」という名前を付けます。インストールが完了したら、[次へ]をクリックします。
6. Notebook Extension Policy Serverソフトウェアをインストールします。
 - a. 初期画面で、[次へ]をクリックして、インストールを開始します。
 - ・ Notebook Extension Policy Server Consoleが、Webアプリケーションとして仮想ディレクトリC:\inetpub\wwwroot\dpnepolicyにインストールされます。
 - ・ Notebook Extension Webサービスは、C:\inetpub\wwwroot\dpnepolicyserviceにインストールされます。どちらも、ポート80でHTTPプロトコルを使用します。
 - b. Policy Serverのインストールが完了したら、[閉じる]、さらに[次へ]をクリックします。
 7. ここで、クリーンアッププログラムをインストールする必要があります。[インストール]をクリックし、インストールを開始します。
 8. クリーンアップのインストールが終了したら、[次へ]をクリックします。
Notebook ExtensionをNotebook Extension Policy Server Consoleから集中管理します。コンソールはブラウザーベースであるため、Policy Serverへのブラウザー接続を

確立できる(HTTPポート80を使用して)任意のコンピューターからNotebook Extensionを管理できます。

Policy Server上のブラウザーからNotebook Extension Policy Server Consoleを実行するには、[Data Protector Notebook Extension管理コンソールを実行する]チェックボックスをオンのままにして、[終了]をクリックします。

 **注記:**

インストール時に、クリーンアップソフトウェアはPolicy Serverにインストールされます。また、パフォーマンスを最適化するため、クリーンアップソフトウェアをData Vaultsにもインストールすることを推奨します。

3 Notebook Extension保護ポリシーの設定

Notebook Extensionインストール後の初期セットアップ

Notebook Extensionのインストール後すぐに、[初期セットアップ]ウィンドウが表示されます。Policy Server Consoleを開いてNotebook Extensionを実行するには、事前に、次の設定手順を正常に完了しておく必要があります。

- ・ **ネットワーク上のHP Data Protector Cell Managerの詳細情報を入力する。**
Notebook Extensionを起動する前に、Cell Managerに正常に接続されている必要があります。[HP Data Protector Cell Managerの設定]をクリックして、詳細情報を入力します。
- ・ **暗号化パスワードを定義またはインポートする。**
セキュリティのため、Notebook Extensionを使用する前に、暗号化パスワードを定義する必要があります。これによって、すべてのファイルがユーザーコンピューターで暗号化され、暗号化されたファイルがネットワーク経由で送信されるように保証されます。すべてのユーザーからのファイルと、中央で設定されたすべてのData Vaultsのファイルの暗号化には、同じパスワードが使用されます。
 - ・ 中央で定義されたData Vault (Policy Server Consoleを通じて定義)は、常に、Notebook Extension暗号化パスワードに基づく暗号化を使用します。
 - ・ ローカルで定義されたData Vaultsの場合(ユーザーによってそれぞれのコンピューターを使用して定義)、ユーザーはそれぞれについて暗号化を使用するかどうかを選択し、ユーザー専用のパスワードを指定できます。

Notebook Extensionの初回インストール時には、続行する前にパスワードを**生成**または**インポート**する必要があります。パスワードの生成後は、安全のために、パスワードを**エクスポート**します。これにより、パスワードは安全な場所に保存されます。後から、インポートしてそれを使用できます。

パスワードを管理するため、[暗号化ポリシーを設定する]をクリックして、ウィンドウ上の指示に従います。

 **注記:**

パスワードを生成またはインポートした後は、それを変更できません。

• **Data Protector Notebook Extensionにライセンスを適用する。**

Notebook Extensionを評価する場合は、ライセンスを追加せずに60日間使用できます。保護できるユーザー数の制限もありません。Notebook Extensionを購入する場合は、HPのLicense Key Delivery Service (<https://webware.hp.com/welcome.asp>)にアクセスしてパスワードをダウンロードする必要があります。後の手順でこのパスワードを入力できます。購入できるライセンスの種類は次のとおりです。

- TA032AAまたはTA032AAE (100個のAgentを使用可能)
- TA033AAまたはTA033AAE (1000個のAgentを使用可能)

評価期間の終了前に、恒久ライセンスのパスワードを入力する必要があります。ライセンスパスワードを入力しないと、期限の終了日に当たる60日目に、AgentがデータをLocal RepositoriesにもData Vaultsにもコピーできなくなります。ただし、以前に保護されたファイルバージョンを復元することはできます。

ライセンスを管理するには、[ライセンス管理]、[Data Protector Notebook Extension ユーザのパスワードを入力する]の順にクリックします。ウィンドウ上の指示に従います。

 **注記:**

ライセンスは、Agentのインストール時に、各Agentに配布されます。

上記の設定手順が正常に完了すると、Policy Server Consoleは完全に使用可能になります。Notebook Extensionをインストールしたばかりの場合は、Notebook Extensionのその他の要素を、次の項で示す順番で設定します。

初回インストール時の設定

Notebook Extensionには、大半の組織で十分に機能するポリシーが事前に設定されています。最初にData Vaultポリシー、コピーポリシー、およびファイル保護ポリシーを設定し、その後、ユーザーのデスクトップおよびノートブックにNotebook Extension Agentソフトウェアをインストールすることを推奨します。

注記:

新しいポリシーを設定する代わりに、Notebook Extensionに事前設定されているポリシーを変更することができます。各段階で、[新しいポリシーを作成する]ではなく[既存のポリシーを編集する]を選択するだけです。

インストールの保護ポリシーはPolicy Server Consoleから設定します。中央で定義したポリシーは、すべてのNotebook Extension Agentに配布され、ユーザーのデスクトップおよびラップトップで実行されます。

1. インストールの終わりに、またはブラウザーから次のURLを使用して随時に、Notebook Extension Policy Server Consoleを実行します。

`http://policyserver/dpnpolicy/`

ここで、「policyserver」は使用しているNotebook Extension Policy Serverの名前です。サーバーに「管理者」としてログインする必要があります。

2. Data Vaultポリシーを設定します。

Data Vaultポリシーは、ポリシーで保護されたユーザーファイルの継続的バックアップの保管先を設定します。ファイルが変更された際、編集前のバージョンと編集されたファイルを1つまたは複数の保管先に自動的にバックアップできます。保管先は通常はネットワーク共有上にあります。各ユーザーグループは1つまたは複数のData Vaultsに割り当てられます。たとえば、営業所という名前のData Vaultポリシーを定義し、それを東京営業所、大阪営業所、札幌営業所、名古屋営業所というユーザーグループに割り当てます。

Data Vaultsの要件:

Notebook Extensionは、ユーザーのデスクトップおよびラップトップからバックアップされた保護ファイルを保管するために標準のWindowsファイル共有を使用します。共有は、Windowsファイルサーバー上に配置する必要があります。このファイルサーバーとPolicy Serverがインストールされているマシンが同じマシンである必要はありません。ただし、インストールされているAgentの数も少なくNotebook Extensionを評価しているだけの場合は、Policy ServerとData Vaultを同じマシンにすると役立つことがあります。

Notebook Extensionは、元のファイルと同じファイルサーバーにバックアップされたファイルにアクセス許可(ACL)を設定します。つまり、ユーザーは、自分のコンピューター上で元のファイルにアクセスできる場合にだけ、バックアップされたファイルを回復できます。

Data Vaultポリシーを作成する

- a. 左側のナビゲーションペインで、[ポリシー]をクリックします。
- b. [Data Vaultポリシーを設定する]をクリックします。
- c. [新しいData Vaultポリシーを作成する]をクリックします。

- d. ウィンドウ上の指示に従います。

 **注記:**

Data Vaultを作成する場合、フォルダーまたは共有のパス長は66文字以下にする必要があります。

ベストプラクティス:

この時点では、コピーポリシーは「デフォルト」のままにしておきます。

クリーンアップの場合:

- ・ このPolicy Server上にData Vaultがある場合、このマシンの名前のデフォルト設定を変更しないでください。
- ・ Data Vaultが別のWindowsファイルサーバー上にある場合は、そのサーバーにData Vaultクリーンアップソフトウェアをインストールし、そのマシンをクリーンアップマシンとして指定します。

3. コピーポリシーを設定します。

コピーポリシーは、Data Vaultと同時にコピーできるクライアント数の制限を設定します。継続的バックアップを補完するための初期およびスケジュールされたData Vaultの更新も定義します。各コピーポリシーは1つまたは複数のData Vaultsに割り当てられます。

コピーポリシーは、次のことを定義します。

- ・ Data Vaultsに同時にファイルをコピーできるAgentの数。
- ・ 定期的な更新のスケジュール。ユーザーに関連すると予想されるファイルがすべてData Vaultに存在することを確認し、存在しない場合は、不足しているファイルをコピーします。これにより、すべてのユーザーファイルがData Vaultに適切にコピーされていることをより強力に保証します。
- ・ **初期更新**(またはコピー)を実行する必要があるかどうか。通常のNotebook Extension操作の間は、ユーザーがNotebook Extension継続的保護ファイルを変更するたびに、変更に関する情報がData Vaultにコピーされないため、初期更新が必要です。

デフォルトのコピーポリシーが、明示的にコピーポリシーが設定されていないすべてのData Vaultsに適用されます。デフォルトのコピーポリシーの設定値は変更できませんが、削除したり、名前を変更したりすることはできません。

コピーポリシーを作成する

- a. 左側のナビゲーションペインで、**[ポリシー]**をクリックします。
- b. **[コピーポリシーを設定する]**をクリックします。
- c. **[新しいコピーポリシーを作成する]**をクリックします。
- d. ウィンドウ上の指示に従います。

ベストプラクティス:

- ・ **数量制限:** 期間を通常の営業時間に設定し、その他の時間帯の下限を設定します。
- ・ **初期更新:** ファイル保護ポリシーによって保護されているすべてのユーザーファイルがバックアップされるように保証するため、初期更新を有効にします。
- ・ **毎週/毎月ファイルを更新する:** 更新にはいくつかのファイルコピー(ある場合)が含まれるため、ポリシーで保護されたすべてのユーザーファイルが適切にバックアップされるように保証するためにData Vault更新を有効にします。

4. ファイル保護ポリシーを設定します。

ファイル保護ポリシーでは、どのファイルを保護し、以前のバージョンをどれだけの期間保持するかを指定できます。たとえば、Word文書、Excelスプレッドシート、PowerPointプレゼンテーションに関して、*Office* 文書という名前のファイル保護ポリシーを定義できます。

ローカルディスクドライブ上のファイルは常時保護されます。

2つのタイプのポリシーがあります。

- ・ **Continuous File Protection** -ファイルがディスクに保存されたり削除されたりしたときに、いつでもリアルタイムにファイルを保護します。一般に、メニューの**[保存]**を選択できるファイルや文書は、Continuous File Protectionポリシーで保護できます。

Notebook Extensionには、*Office* 文書、ソフトウェア開発、およびWeb文書の3つの例が含まれています。これらのポリシーを使用して開始することもできれば、自分専用のポリシーを作成することもできます。

- ・ **Open File Protection** -ファイルの「スナップショット」を定期的(通常、1時間に1回)とることで、ファイルを保護します。一般的に、とても大きかったり(100MB以上)、1日中ずっと開いていたり、**[保存]**メニューがないようなファイルはこの方式で保護します。この種のファイルのうち典型的なものとしては、メールやデータベースファイルがあります。

Notebook Extensionには、*Microsoft Outlook*と*Microsoft Outlook Express*の2つの例が含まれています。これらのポリシーを使用して開始することもできれば、自分専用のポリシーを作成することもできます。

ファイル保護ポリシーを作成する

- a. 左側のナビゲーションペインで、**[ポリシー]**をクリックします。
- b. **[ファイル保護ポリシーを設定する]**をクリックします。
- c. **[新しいContinuous File Protectionポリシーを作成する]**または**[新しいOpen File Protectionポリシーを作成する]**をクリックします。
- d. ウィンドウ上の指示に従います。

 **注記:**

コピーポリシーを作成し除外または包含ルールを設定するとき、ファイル拡張子は、Open File Protectionポリシーの場合は9文字、Continuous File Protectionポリシーの場合は29文字までにしてください。

 **重要:**

これで、Notebook Extensionが必要とするすべての基本ポリシーが設定されました。Notebook Extensionには、大半の組織で十分に機能するその他のポリシーも事前に設定されています。この時点で、ユーザーのデスクトップおよびラップトップでAgentのインストールを開始することを推奨します(第4章(31ページ)を参照)。後から、クリーンアップポリシー、ユーザー制御ポリシー、Agent更新ポリシー、レポートデータ保持ポリシーなどの他のNotebook Extensionポリシーを見直して、設定することができます。

その他のポリシーの設定

1. Active Directoryへのアクセスを設定します。

グループや組織単位ごとにData Vaultsを割り当てる場合や、グループや組織単位別にレポートする場合は、Active DirectoryにアクセスできるようにPolicy Serverを設定する必要があります。

Active Directoryへのアクセスを設定すると、Data Vaultsの[グループおよび組織単位のメンバー]オプションが有効になります(「初回インストール時の設定」(20ページ)を参照)。

Active Directoryへのアクセスを設定する

- a. 左側のナビゲーションペインで、[設定]をクリックします。
- b. [Active Directoryへのアクセスを設定する]をクリックします。
- c. ウィンドウ上の指示に従います。

2. クリーンアップポリシーを設定します。

ユーザーコンピューター上のLocal Repositoriesと、ファイルサーバー上のData Vaultsは、定期的にクリーンアップして、ファイル保護ポリシーで定義した保持期間の設定を経過している古いバージョンを削除する必要があります。

クリーンアップポリシーを設定する

- a. 左側のナビゲーションペインで、[ポリシー]をクリックします。
- b. [クリーンアップポリシーを設定する]をクリックします。

c. ウィンドウ上の指示に従います。

ベストプラクティス:

- ・ **Local Repositoryクリーンアップスケジュール**: デフォルトの1時間のままにしておきます。
- ・ **>Data Vaultクリーンアップスケジュール**: 大半のインストールでは、「毎日、真夜中にクリーンアップする」デフォルト設定で十分なはずです。

3. ユーザー制御ポリシーを設定します。

ユーザー制御ポリシーは、ユーザーのコンピューターに割り当てられた組織のポリシーに対してユーザーが制御できる範囲を決定します。

ユーザー制御ポリシーを設定する

- a. 左側のナビゲーションペインで、**[ポリシー]**をクリックします。
- b. **[ユーザー制御ポリシーを設定する]**をクリックします。
- c. ウィンドウ上の指示に従います。

ベストプラクティス:

[ファイルの回復]に対して**[ユーザーによる制御を許可する]**を設定し、すべての他のポリシーについて**[ユーザから隠す]**を選択します。

4. Agent更新ポリシーを設定します。

ポリシーは、Notebook Extensionで保護されるすべてのデスクトップとラップトップが使用するNotebook Extension Agentのバージョンを指定します。Agentはすべて自動的にこのバージョンに更新されます。

Agent更新ポリシーを設定する

- a. 左側のナビゲーションペインで、**[ポリシー]**をクリックします。
- b. **[Agent更新ポリシーを設定する]**をクリックします。
- c. ウィンドウ上の指示に従います。

5. レポートデータの保持期間を設定します。

これは、情報の主要なカテゴリごとに、レポート目的でデータを保持しておく期間を設定します。

レポートデータの保持期間を設定する

- a. 左側のナビゲーションペインで、**[設定]**をクリックします。
- b. **[レポートデータの保持期間を設定する]**をクリックします。
- c. ウィンドウ上の指示に従います。

その他の構成タスク

次の手順は、通常、Notebook Extensionの初回インストール時に実行されます。

Notebook Extensionソフトウェアのライセンスを登録します。

Notebook Extensionを評価する場合は、ライセンスを追加せずに60日間使用できます。保護できるユーザー数の制限もありません。Notebook Extensionを購入する場合は、HPのLicense Key Delivery Service (<https://webware.hp.com/welcome.asp>)にアクセスしてパスワードをダウンロードする必要があります。後の手順でこのパスワードを入力できます。

ライセンスパスワードを入力する

1. 左側のナビゲーションペインで、[ライセンス管理]をクリックします。
2. [Data Protector Notebook Extensionユーザのパスワードを入力する]をクリックします。
3. ウィンドウ上の指示に従います。

注記:

ライセンスは、Agentのインストール時に、各Agentに配布されます。

ライセンスの移動

Policy ServerのIPアドレスを変更して別のシステムに移動する必要がある場合、またはライセンスをPolicy Server間で移動する必要がある場合は、以下の手順に従ってください。HP License Key Delivery Service (<https://webware.hp.com/welcome.asp>)にアクセスして、ライセンスを更新します。

暗号化パスワードを設定、インポート、およびエクスポートします。

セキュリティのため、Notebook Extensionを使用する前に、暗号化パスワードを定義する必要があります。これによって、すべてのファイルがユーザーコンピューターで暗号化され、暗号化されたファイルがネットワーク経由で送信されるように保証されます。すべてのユーザーからのファイルと、中央で設定されたすべてのData Vaultsのファイルの暗号化には、同じパスワードが使用されます。

- 中央で定義されたData Vault (Policy Server Consoleを通じて定義)は、常に、Notebook Extension暗号化パスワードに基づく暗号化を使用します。
- ローカルで定義されたData Vaultsの場合(ユーザーによってそれぞれのコンピューターを使用して定義)、ユーザーはそれぞれについて暗号化を使用するかどうかを選択し、ユーザー専用のパスワードを指定できます。

Notebook Extensionの初回インストール時には、続行する前にパスワードを生成またはインポートする必要があります。パスワードの生成後は、安全のために、パスワードをエクスポートします。これにより、パスワードは安全な場所に保存されます。後から、インポートしてそれを使用できます。



注記:

パスワードを生成またはインポートした後は、それを変更できません。

暗号化パスワードを管理する

1. 左側のナビゲーションペインで、[ポリシー]をクリックします。
2. [暗号化ポリシー]をクリックします。
3. ウィンドウ上の指示に従います。

サポートできるAgentの数の決定

すべての環境で通用する全般的なルールを提案することは困難です。このため、ここではいくつかのケースを挙げ、ここで提示する数が有効になる状況について曖昧さを残さず明快に説明します。

サイズ決定を左右する要素

Notebook Extension環境のサイズ決定は複雑です。ある環境でサポートできるユーザーの数を左右する技術的要素には、次のようなものがあります。

- ・ Data Vaultの処理能力(バックアップデータの夜間統合のため)
- ・ Data VaultサーバーのネットワークおよびI/O帯域幅
- ・ Data Vaultサーバーのディスク容量
- ・ Policy Server上のSQLデータベースのサイズ
- ・ Policy Serverのネットワーク帯域幅と処理能力

インストール済みの構成で上記の項目のうちどれがボトルネックの原因になるかは、次に示すNotebook Extensionのコンフィギュレーション設定および使用パターンの両方によって決まります。

- ・ Data Vaultのユーザー数
- ・ 設定された保護ポリシーで保護されるファイルの数とサイズ
- ・ 保護されるファイルの変更頻度
- ・ 保護されるファイルタイプの保持設定

サイズ決定に関する推奨事項

Data Vault

次のハードウェア仕様は、Data Vaultの堅牢な基盤になります。

- ・ 3GHzデュアルコアプロセッサ×1
- ・ 2GB RAM
- ・ 1.5TBのディスク容量

データ特性が平均的に次のようになっている場合、上記の仕様のData Vaultは、最大1,000個のAgentに対応する数のユーザーをサポートできます。

- ・ 保護されるファイルの平均数: 3000
- ・ ローカルディスク上で保護されるファイルの平均総サイズ: 4GB¹
- ・ Data Vaultの平均総サイズ(圧縮): 1GB

平均的にこの例よりも保護する必要があるデータの量が多い場合は、エンドユーザーデータの複数のData Vaultsへの分散を検討してください。Data Vaultのディスク容量を単純に増やしてもデータを保存できる余地は増えますが、Data Vaultで適切なタイミングでバックアップデータの夜間統合を行えなくなることがあります。

ユーザーの所有するデータが平均的に少ない場合は、1つのData Vaultで1,000人を超えるユーザーをサポートできます。

注記:

パフォーマンスを最大限に引き出すために、Data Vaultのオペレーティングシステムとバックアップデータは別々の物理ディスク上に保存することを強く推奨します。

Policy Server

Policy Server上で生成されるトラフィックの量は、サーバーがサポートするAgentの数に直接左右されます。DPNEに付属のMS SQL Server Express Editionを使用する場合、データベースの最大サイズは4GBになります。また、サポートできるAgentの最大数は5,000²です。

¹Continuous File Protectionポリシー設定のファイル3.5GBとOpen File Protectionポリシー設定のファイル0.5GBの混在を想定

²Policy Server上の「レポートデータの保持期間」のデフォルト設定(30日)を使用

ご使用の環境で5,000を超すAgentをサポートする必要がある場合は、Policy Serverを追加するかまたはMS SQL ExpressをMicrosoft SQL Serverの完全版と入れ替えることができます。このようにすれば、Policy Serverを最大50,000のAgentをサポートするように簡単にスケールアップできます。MS SQL Serverの完全版を使用する場合は、Policy Serverのメインメモリを3GB以上にアップグレードすることを検討してください。

Policy Serverは、Data Vaultと同じサーバー上で動作することも別々のサーバー上で動作することもできます。

Policy Serverは最低1つ必要ですが、Policy Serverの数とData Vaultsの数が一致する必要はありません。

ネットワークに関する検討事項

Notebook Extension AgentとData Vaultsとの間のネットワーク遅延が50msを超える場合、一般には、Notebook Extension AgentからData Vaultsに対して初期更新を行うことは推奨されません。低速のWAN接続で結ばれるホームオフィスや遠く離れたオフィスでは、通常、ネットワーク遅延が50msを超えます。初期更新は可能ですが、きわめて長い時間がかかります。

ご使用の環境に複数のサイトに点在するオフィスが含まれ、そのうちの一部のネットワーク遅延が50msを超える場合、Data Vaultsを複数のサイトに設置してすべてのオフィスから少なくとも1つのData Vaultに50ms以下の遅延でアクセスできるようにすることを検討してください。

初期更新が完了すれば、ホームオフィスを含む、企業ネットワーク上の任意の位置から更新を行うことができます。初期更新以外の更新では更新されるデータのサイズが小さいので、通常、低速のネットワーク接続経由でも十分です。

初期更新を高遅延の接続経由で実行しなければならない状況では、更新の完了までに数日かかりますが、途中で中断しても問題ありません。Data VaultにNotebook Extensionを再接続すると、停止された時点からただちに更新が再開されます。

ヒント:

オフィス間の遅延についての情報がない場合は、1つのサイトのコンピューターからpingコマンドを実行して別のサイトのコンピューターにpingを送信します。pingが成功すれば、遅延が報告されます。

4 Notebook Extension Agentのインストール



注記:

ライセンスは、Agentのインストール時に、各Agentに配布されます。

Notebook Extension Agentは次の2通りの方法でインストールできます。

- ・ 個別に各クライアントマシンにインストールする。「[個々のクライアントマシンへのNotebook Extension Agentのインストール](#)」(31ページ)を参照してください。
- ・ すべてのクライアントマシンにアクセス可能なファイルサーバーから組織全体に配置する。「[Notebook Extension Agentの組織全体への配置](#)」(32ページ)を参照してください。

個々のクライアントマシンへのNotebook Extension Agentのインストール

要件

Notebook Extension Agentソフトウェアは、Windowsを実行するユーザーのデスクトップまたはノートブックにインストールできます。サポートされるプラットフォームについては、サポートマトリックスを参照してください。

「管理者」権限を持つアカウントにログインする必要があります。

インストール手順

1. Notebook ExtensionインストールCD-ROMを挿入します。インストールウィザードが自動的に起動します。自動的に起動しない場合は、インストールCD-ROMのルートでsetup.htaをダブルクリックして手動で実行します。

2. [Install or Update Data Protector Notebook Extension Agent Software]をクリックします。[開く]または[保存]ダイアログボックスが表示された場合は、[開く] (または[実行])を選択します。
3. ユーザーコンピューターにMicrosoft Windows Installer 3.1以降がインストールされていない場合は、ウィザードによってそれをインストールするように指示されます。[Windows Installerの更新]ダイアログボックスが表示されたら、[OK]をクリックしてそれをインストールします。
4. ユーザーコンピューターにMicrosoft .NET Framework 2.0 SP1以降がインストールされていない場合は、ウィザードによってそれをインストールするように指示されます。[Microsoft .NET Framework 2.0 SP1のインストール]ダイアログボックスが表示されたら、[OK]をクリックしてそれをインストールします。

Open File ProtectionポリシーがPolicy Serverに設定されている場合は、インストールと構成が完了した時点で、システムを再起動するように指示されます。[再起動]をクリックします。
5. ウィザードが自動的にNotebook Extension Agentをインストールします。画面上の指示に従います。インストール中に、Policy Serverの詳細情報を入力するように求められます。
6. インストールが完了したら、[終了]をクリックします。

これで、Notebook Extensionアイコンがシステムトレイに表示されます。
7. 次の手順を実行して、Notebook Extension Agentが適切に動作することをテストします。
 - a. 「デスクトップ」でWord文書やExcelスプレッドシートなどのテストファイルを選択するか作成します。いくつかの変更を加え、[保存]をクリックします。
 - b. Windows Explorerまたは[開く]ダイアログボックスで「デスクトップ」にあるテストファイルを右クリックします。メニューに3つのNotebook Extensionエントリーが表示されます([ファイルを検索して回復...]、[バージョンのコピー]、および[XXXでバージョンを開く])。
 - c. [XXXでバージョンを開く]を選択すると、作成または編集した文書のタイムスタンプ付きのバージョンのリストが表示されます。いずれかのバージョンを選択すると、適切なアプリケーションで読み取り専用の文書として開かれます。この方法で、ユーザーは以前のバージョンの文書をローカルのNotebook Extension保管領域から回復できます。
8. Notebook Extensionで保護する他のユーザーデスクトップおよびラップトップに対してもステップ1~8を繰り返します。

Notebook Extension Agentの組織全体への配置

インストールCD-ROMに収録されたNotebook Extension Agent Deployment Kitを使用して、最初にNotebook Extension Agentを組織全体に配置できます。

注記:

ユーザーアカウント制御(UAC)が有効になっているVista PCでは、Deployment Kitは使用できません。この問題を解決するには、UACを無効にするかまたはAgentを対話形式でインストールします。

次に説明する手順では、最初にCD-ROM:¥AgentにあるNotebook Extension Agent Deployment Kitを、すべてのユーザーにアクセス可能なファイルサーバー上のディレクトリにコピーします。その後、SetupConfig.exeを使用して、そのディレクトリ内でパラメーターファイルを作成します。最後に、各ユーザーのコンピューターから共有ディレクトリにあるStartInstall.exeを実行するためのメカニズムを確立します。たとえば、ログインスクリプトを使用できます。その後、Notebook Extension Policy Server ConsoleからAgent配置概要レポートを使用して配置を監視できます。

Kitの内容

Notebook Extension Deployment Kitには、次のコンポーネントが含まれています。

SetupConfig.exe	初期ファイルを作成および編集します。
StartInstall.exe	権限を持つユーザーとしてSetup.exeを起動します。
Setup.exe	要件とDataProtectorNE.iniをインストールします。
DataProtectorNE.msi	AgentソフトウェアをインストールするためのNotebook Extension Windows Installerパッケージ。
WindowsInstaller.exe	Windows Installerを更新します(.NETのインストールが必要)。
NetFx20SP1_x64.exe、Net-Fx20SP1_x86.exe	.NET Framework 2.0 SP1をインストールします。
Setup.ini	Notebook Extensionインストールセットアップパラメーターファイル。このファイルは、SetupConfig.exeを使用して作成されます(以下のステップ4を参照)。

配置およびインストール手順

1. 配布CD-ROMのAgentディレクトリ内のファイルを、Notebook Extension Agent Deployment Kitの使用対象のすべてのユーザーにアクセスできるディレクトリにコピーします。これには、¥¥yourserver¥DPNEDeployなどの共通のnetlogon共有のディレクトリを使用します。
2. 新たに作成したディレクトリに上記のファイルが含まれていることを確認します。それ以外のファイルはすべて削除します。
3. [DOSコマンド]ウィンドウを開き(cmd. exe)、cdを実行してステップ1で作成したディレクトリに移動します。
4. SetupConfig. exeを実行して、パラメーターファイルSetup. iniを作成または編集します。SetupConfig. exeの初回実行時には、すべてのパラメーターに値を入力する必要があります。その後は、パラメーターを変更するために、SetupConfig. exeを繰り返し実行できます。パラメーターを変更しない場合は、[Enter]キーを押すだけです。

必要なパラメーターは次のとおりです。

- ・ **インストールパッケージへのUNCパス** - ステップ1でファイルがコピーされた共有ディレクトリへの完全なパス。¥¥yourserver¥DPNEDeployなど。
 - ・ **Notebook Extension Policy Server**の名前。YOURSERVERのようなNetBIOS名でも、yourserver.yourcompany.comのような完全修飾ドメイン名でも構いません。
 - ・ **ユーザー名** - Domain Adminsグループのメンバーなど、Notebook Extension Agent Deployment Kitを使用するコンピューター上の管理者権限を持つユーザーのユーザー名。通常は、YOURCOMPANY¥JerryAdminのように、ドメインを含む完全修飾ユーザー名を指定します。
 - ・ **パスワード** - ユーザー名に関連付けられたパスワード。確認のため2回入力する必要があります。
5. クライアントコンピューター上で、StartInstall. exeを実行します。たとえば、¥¥yourserver¥DPNEDeploy¥StartInstallと指定します。このプログラムは、Setup. iniで指定されたユーザー名とパスワードを使用して、Setup. exeを低い優先度で、バックグラウンドで実行します。これは、ログオンスクリプトの一部として実行できます。マシンアカウントが十分なネットワーク権限を持っていないため、それをスタートアップスクリプトに含めることはできない点に注意してください。
 6. Setup. exeは、クライアントコンピューターがNotebook Extensionをサポートできるかどうかを判断します。サポートされるWindowsプラットフォームについては、サポートマトリックスを参照してください。
 7. Setup. exeは、.NET Frameworkバージョン2.0 SP1がインストールされているかどうかを判断します。インストールされていない場合は、インストールします。その後、コンピューターの再起動が必要となることがあります。

8. Setup.exeは、Notebook Extensionがすでにインストールされているかどうかを判断します。インストールされていないか、バージョンが古い場合は、Notebook Extensionをインストールします。

 **注記:**

ステップ4~7でエラーが発生すると、Notebook Extension Policy Serverと、ローカルコンピュータのアプリケーションイベントログにメッセージが記録されます。

Notebook Extension Policy Server Consoleを使用して、Agentの配置の進行状況をチェックできます。

1. Notebook Extension Policy Server Consoleにログインします。
2. 左側のナビゲーションペインにある[レポート]の下の[Agentの配置]を選択します。最新の初期配置の概要が表示されます。次のことがわかります。
 - ・ 配置が正常に終了したマシンの数。
 - ・ 進行中の配置の数。
 - ・ 配置に失敗した数。
3. [コンピューター数]列の数字をクリックすると、選択した配置状態のマシンのリストが表示されます。各マシンの現在の状態が示されます。たとえば、特定のマシンで配置に失敗した場合、[情報]列に発生したエラーが示されます。NETBIOS名をクリックすると、そのマシンに関するさらに詳細な情報を表示できます。

5 Notebook Extensionのサポートへの連絡方法

Notebook Extensionには、1年間のメンテナンス保証が付いています。次のサービスを利用できます。

- ・ 電話サポート。サポート技術者に問い合わせることができます。
- ・ Notebook Extension ServerおよびNotebook Extension Agentソフトウェアの更新。最新バージョンおよびCD-ROMイメージは、Data Protector Webサイトからダウンロードできます。<http://www.hp.com/go/dataprotector> (英語)を参照してください。

索引

シンボル

.NET Framework, 16, 32

A

Active Directory, 11

 アクセス, 24

Active Directoryへのアクセス, 24

Agent, 11

 サポートできる数, 27

 要件, 14

Agent Deployment Kitの内容, 33

Agent更新ポリシー, 25

Agentソフトウェア

 インストール, 31

 組織全体への配置, 32

Agentソフトウェアの配置, 32

 進行状況のチェック, 35

 手順, 34

ASP.NET, 16

C

Cell Manager、設定, 19

Console、実行, 17, 21

Continuous File Protectionポリシー, 23

D

Data Protector Cell Manager、設定, 19

Data Vaults

 サーバーに関する推奨事項, 28

 要件, 21

Data Vaultポリシー, 21

H

HP

 テクニカルサポート, 9

I

IIS, 16

N

Notebook Extension

 Agentのインストール, 31

 アーキテクチャー, 12

 概要, 11

 サポートの取得, 37

Notebook Extensionの評価, 20, 26

O

Open File Protectionポリシー, 23

P

Policy Server, 11

 インストール, 15

 推奨事項, 28

 データベースの要件, 14

 要件, 13

Policy Server Console、実行, 17, 21

S

- SQL Server
 - インストール, 17
- SQLデータベース
 - 要件, 14
- Subscriber's Choice、HP, 9

W

- Webサイト
 - HP, 9
 - HP Subscriber's Choice for Business, 9
 - 製品マニュアル, 7
- Windows Installer, 16, 32

あ

- 暗号化パスワード, 19, 26, 27
- 暗号化パスワードのインポート, 19, 26
- 暗号化パスワードのエクスポート, 19, 26
- 暗号化パスワードの入力, 27

い

- インストール
 - Agent, 31
 - Policy Server, 15
 - SQL Server, 17
 - 概要, 13
- インターネットインフォメーションサービス, 16

か

- 概要, 11

く

- クリーンアップポリシー, 24

こ

- コピーポリシー, 22

さ

- サーバー
 - ファイル, 11
 - ポリシー, 11
- サイズ決定に関する検討事項, 27
 - Data Vault, 28
 - Policy Server, 28
 - ネットワーク, 29
- サポート, 37
- サポートマトリックス, 11
- 参考資料, 7

し

- 資料
 - HPのWebサイト, 7
 - 参考資料, 7
 - フィードバックの提供, 9

せ

- 設定
 - Active Directoryへのアクセス, 24
 - Agent更新ポリシー, 25
 - Continuous File Protectionポリシー, 23
 - Data Vaultポリシー, 21
 - Open File Protectionポリシー, 23
 - クリーンアップポリシー, 24
 - コピーポリシー, 22
 - 初回インストール時のポリシー, 20
 - ファイル保護ポリシー, 23
 - ユーザー制御ポリシー, 25
 - レポートデータ保持期間, 25

て

- テクニカルサポート, 9
- データベースの要件, 14

デスクトップ、要件, 14

と

読者, 7

ね

ネットワーク、サイズ決定に関する検討事項, 29

の

ノートブック、要件, 14

は

配置

進行状況のチェック, 35

手順, 34

パスワード, 19, 26

ひ

表記上の規則

文書, 7

ふ

ファイルサーバー, 11

ファイル保護ポリシー, 23

継続的, 23

常時使用, 23

文書

表記上の規則, 7

へ

ヘルプ

入手, 9

ほ

ポリシー

Agent の更新, 25

Continuous File Protection, 23

Data Vault, 21

Open File Protection, 23

クリーンアップ, 24

コピー, 22

初回インストール時の設定, 20

配信, 12

ファイル保護, 23

ユーザー制御, 25

レポートデータ保持期間, 25

ゆ

ユーザーコンピューター、要件, 14

ユーザー制御ポリシー, 25

よ

要件, 13

ら

ライセンス, 20, 26

移動, 26

購入できる, 20

パスワードの入力, 26

ライセンスの移動, 26

ライセンスパスワードの入力, 26

れ

レポートデータ保持期間, 25

